

“箱創り”を応援するビジネスマッチングマガジン

月刊カートン・ボックス

6

June
2021

Vol.40 No.472

carton & box

特集

コロナ禍でも進化を証明

virtual.drupa にみるパッケージ印刷&箱創り技術

経営

「容器包装3Rのための自主行動計画2025」を策定 / 3R推進団体連絡会

TSUKATANI Quality

あらゆるビジネスニーズに切れ味鋭く応える
カッティングエッジのトップメーカー

株式会社 塚谷刃物製作所

<https://www.tsukatani-hamono.co.jp>

国内で3700台導入の「コルプロ」

貼合用、耐久性やメンテナンス性に高い評価

株式会社日本ジョイント

日本ジョイント（京都府久御山町）のコルゲータ用ロータリージョイント「コルプロジョイント」は、2007年の発売から約14年間で累計3700台超の国内納入実績を誇る。その耐久性やメンテナンスのしやすさ、予防保全を取り入れた機能が評価され、コルゲータ入れ替え時にユーザーである段ボールメーカーから指名されることも多いそうだ。

実稼働で7年超のノーメンテを達成

同社はロータリージョイント、つまり固定体から回転体へ媒体を供給する回転継ぎ手のメーカーとして、米国ケイデント・ジョンソン社と技術提携し、日本国内および東南アジア



コルゲータロールに設置された「コルプロジョイント」

に製品を供給している。以前は、製紙・パルプ業界向けが売上の7～8割を占めていたものの、製紙需要の減少を受けて段ボール業界や製鉄業界に進出した。

コルゲータ用のコルプロジョイントを開発後、近隣の段ボール工場で実機テストを始めたのが2000年5月。順調に稼働を続け、7年7カ月にわたってノーメンテナンスを達成した。競合他社の製品は2～3年ごとにメンテナンス・消耗品交換が必要なので、圧倒的な耐久性を示したといえる。

コルゲータ自体の貼合能力は20年ほどの間に高速化し、その主流は毎分150～200mから毎分300m台に移っている。高速になれば乾燥スピードが求められ、蒸気圧力を高めて温度を上げたり、ロールの本数を増やしたり、ロール径を大きくして接触面積を広げたりする必要がある。加えて、機械幅の主流も1800mm前後から2200mm以上に広幅化している。堀江治幸常務によると、高速・広幅化が進む中で「設置されるロータリージョイントの数は1ライン当たり30台弱に増えた」という。

貼合設備更新で指名されるように

コルプロジョイントは、コルゲータの進化で必須となる長寿命化を実現。また、事前メンテナンスを可能にする予防保全機能が採用されている。これまで、蒸気漏れを発見して対処する事後メンテナンスのため、週末に修理するまでに状態が悪化し、本来交換しなくてよい他の部品まで交換する場合もあったが、

そうした事態を目視判断で回避できる。部品の破損を防ぐ安全装置が付き、交換する消耗品が少なくシンプルな構造であり、メンテナンスしやすい特徴を併せ持つ。堀江常務は「従来のロータリージョイントの弱点を全て克服した製品と自負している」とアピールする。

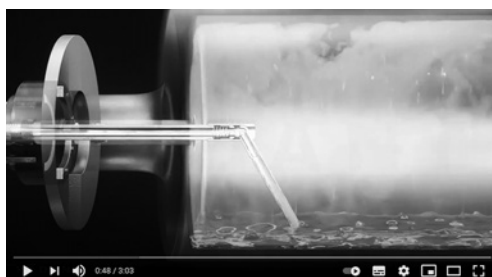
段ボール業界に参入した当初、コルゲータを製造する機械メーカーに営業していたが、コルプロジョイントの開発を「新製品をユーザーの皆さんに紹介するチャンス」と捉え、段ボールメーカーへのアプローチを始めた。2007年から本格販売、関西エリアの大手工場に導入され、関西から中部、そして全国へ販路が拡大した。

段ボール工場への改造導入が進み、実際に使って高く評価され、貼合設備の更新時期には機械メーカーに「ロータリージョイントは“コルプロ”で」と指名されるようになり、シェア獲得が進んでいった。さらに、ISOWA製のコルゲータでは約95%に搭載される標準仕様となっている。今年2月末の時点で国内納入実績は累計3700台を突破し、技術提携するケイデント・ジョンソン社グループ全体を通じた納入は累計1万台を優に超える。

「チーム・コルプロ」で活動、 公式YouTubeチャンネルも開設

同社は、製造販売だけでなく既設機への改造設置工事、設備診断・提案、保守点検なども手掛け、段ボール業界向けに「チーム・コルプロ」を組織。8年ほど前からサービスを開始し、年間の訪問件数は約30件、顧客から高い評価を得ている。付随する消耗部品の販売もあり、競合他社ができないサービスとして差別化につながっている。世代交代などによりメンテナンスできる人が少なくなり、働き方改革で残業や休日出勤が制限される現状にも合致したサービスだ。

堀江常務は、直接的なメリット以外に「営業・製造部員が土・日曜を中心にユーザーの工場を訪問するため、落ち着いた状況で設備の相



公式YouTubeチャンネル「株式会社日本ジョイント」では会社内や製品情報を発信中

談に乗ることができる。普段社内で機械を製造している社員にとって、出荷先での使われ方を知る機会となり、品質を向上させるきっかけにもなる」としている。

この3月には、新たな取り組みとして公式YouTubeチャンネル「株式会社日本ジョイント」を開設した。売り込む業界を絞るのではなく、異業種など不特定多数を相手とした発信により、新規分野の開拓なども期待される。

現在アップされている動画は、ドローンで撮影した工場・事務所案内や、ロータリージョイントがロール内の蒸気ドレン（復水）を回収するサイフォン装置の挙動など。「ユーザーの皆さんに製造環境を映像で見てください、安心感を与えたい。また、ロール内のドレン回収の仕組みなどを開示できるのは、国内同業で当社のみだろう」と堀江常務。今後は、ケイデント・ジョンソン社が英語で制作する各種ロータリージョイントの動画に翻訳字幕を付けるなどして、情報発信を強化していく方針だ。（編集部・佐藤隆司）

株式会社日本ジョイント
京都府久世郡久御山町市田北浦55
☎0774-23-3211